

化学物質恐怖症の人へー科学を身につけましょう!



[Steven Hentges, Ph.D](#)

2019年7月31日(水) [SAFETY](#)

化学物質恐怖症: 化学物質に対する異常または過度の恐怖 (Merriam-Webster より)

→ <https://www.merriam-webster.com/dictionary/chemophobe>

化学物質恐怖症という用語は、化学物質に対する不合理な恐怖と一部のみに定義されています。一方で、化学物質恐怖症は、化学物質に関連したメディアの記事に対する完全に合理的な反応と見做される場合もあります。化学物質の有害性に関する恐ろしい記事を見つけるのは簡単ですが、化学物質が私たちの生活をより良く、より安全にするためにどのように役立っているかを一般大衆に知らせる記事を見つけることは稀です。

化学物質恐怖症はまた科学的リテラシーが低く、科学を信用しない人の例としても説明されます。この視点は、化学物質の安全性の問題に関して、一般大衆と規制当局を含む専門科学者間によく起る意見の相違を説明するのに役立つかもしれません。

これらの現象の良い例は、化学物質ビスフェノール A (BPA) に見る事ができます。BPA は眼鏡から自転車用ヘルメットまで、そして自動車ヘッドランプレンズから救命医療機器に至るまでの毎日接しているありふれた消費者製品に使用される透明で耐衝撃性に優れたポリカーボネート製造に何十年にも亘って安全に使用されてきました。

BPA の安全性は徹底的に研究されており、現在では最も試験された商用化学物質の 1 つです。10 年以上に亘り、米国政府の科学者は、BPA の安全性に関する重要な科学的疑問に答えることを目標に、詳細な研究プログラムを実施してきました。

この研究から、人への BPA 曝露が極端に低い事を私たちは知っています。曝露後、BPA は体内か

ら素早く排泄されることがわかっています。そして、私達が曝露している非常に低いレベルで BPA が健康影響を引き起こす可能性は低いことを私達は知っています。科学データ全体に基づいて、米国食品医薬品局 (FDA) は、「[BPA は安全ですか?](#)」の質問に対した一言「はい」と答えています。

しかしながら一部のメディアの報道や活動家グループからは、BPA は非常に有害な物質であり、どうしても避けるべきだという印象を持つかもしれません。BPA などの物質に関してこのような大きく異なる見解があると、研究者はそれが起きる理由を理解し、回避する方法を見つけることに関心があることは驚くことではありません。

最近、スイスの研究所の研究者グループが、消費者の毒物学の知識と公的機関に対する信頼度の関係の理解を目的とした、スイス政府による大規模な[研究](#)結果を発表しました。最終的には研究者は、毒物学者などの専門家と一般大衆とのコミュニケーションを改善したいと考えています。

この研究は、ヨーロッパ 8 か国の 5,600 人を超える人々への大規模調査の形で行われました。全体的な結果は、「人々の毒物学的原理についての知識に大きなギャップが存在し、知識不足と化学物質恐怖症の多さは有意に関連していることを示唆しています。」でした。調査はまた、公的機関に対しては、「信頼度の高まりと、化学物質恐怖症の少なさは有意に関連している。」事を発見しました。

これを知ることは重要ですが、大きな課題は何をすべきか知っていることです。著者らは、「毒物学の原理と化学物質のリスク評価について消費者に情報を提供し教育を行うことは、規制当局に対する国民の信頼を高め、化学物質恐怖症のレベルを下げる可能性がある。」と指摘しています。それは真実かもしれませんが、それは難しい注文であり、暫くの間化学物質恐怖症は無くならないでしょう。